

2023年7月31日

## 「地球を守るとは何か？」

「核兵器は地球を守れるか？」

初めてこのオピニオン募集を目にしたとき、私は直観的に

「守れるわけがない」

と心の中で思った。

核兵器が地球を守ることはあり得ないし、実際望ましいものではない。

むしろ、核兵器の存在は地球や人類にとって深刻な脅威となると、私はここで強く訴えたい。

核兵器が地球を守るという考えはいつから出てきたのだろうか。

軍事的優位な立場に立とうと激化した核兵器開発競争。

1945年8月6日に広島、8月9日長崎に投下された原子爆弾。

冷戦時代に起きたアメリカ合衆国とソビエト連邦による核兵器の保有と核抑止力の重要性の強調。

これらのことが現実として起きてしまったがために、核兵器は、一定の規模以上の戦争を回避させる抑止力を持つという考え方が広がった。特に冷戦時代には世界的な安全保障における重要な要素とされ、核戦争の回避と平和の維持に貢献するという信念が一部の政府や軍事戦略家によって支持されたのである。

しかし、私はこれらの現状・見解を目にしても、核兵器が地球を守れるとは考えていない。なぜなら、核兵器は本当の意味である「守る」役割を果たせていないからである。

「守る」とはどういうことか。辞書で調べると以下の意味がある。

- 1 侵されたり、害が及ばないように防ぐ。
- 2 決めたことや規則に従う。
- 3 相手の攻撃に備え、守備する
- 4 目を離さずに見る。みまもる。
- 5 様子を見定める。

まず、「侵されたり、害が及ばないように防ぐ。」として、核兵器が抑止力としての役割を果たすとされることがあるが、実際には核兵器保有国間で対立や紛争が継続していることがある。例えばインド・パキスタン紛争のような核保有国間で緊張や小規模な軍事紛争が起きるケースがある。このような状況では、核兵器が侵略や攻撃を防ぐ役割を果たせていないと言えるだろう。

次に、「決めたことや規則に従う。」について、核兵器に関しては、国際法や軍縮条約による規制があるが、核兵器がそれに従うとは限らない。一部の核保有国は非拡散や軍縮交渉に消極的な姿勢を見せることもある。そのような態度が取られると、核兵器が国際社会の安全保障や平和に貢献する役割を果たすことが阻害されてしまう。

また、「相手の攻撃に備え、守備する。」についても、核兵器は攻撃を受けた際に応戦する手段として守備の役割を持つと言われているが、その実際の効果については疑問視してしまう。核兵器を持つことが、相手国の攻撃を防ぐことにつながるかどうかは議論の余地がある。むしろ、核兵器の保有が攻撃や軍事的な緊張を高め、国際社会に不安定さをもたらす場合もあるのだ。

「目を離さずに見る。見守る。」は、国際社会が核兵器の保有や使用に対して監視し、監査を行っているという点だが、核保有国は国家の主権を尊重されるため、核兵器のすべての情報を公開することは難しい場合がある。また、監視活動にも限界があり、予期せぬ事態や隠蔽が行われる可能性もある。

さらに、「様子を見定める。」についても、核兵器の保有や使用は国際情勢に大きな影響を与えるため、国際社会は常に様子を見定めている。しかし、核兵器の保有が国際的な緊張を高め、戦争の拡大をもたらすリスクを孕んでいるという指摘がある。核兵器の存在が地球の安定に対して新たな脅威をもたらしているのは事実であり、そのような状況下で地球を守ることは難しいと言わざるを得ない。

ここで気付いてほしいことは、地球は私たちだけが存在しているわけではないということだ。核兵器が与える影響について考えたとき、それらは人間や国家の視点に偏っており、地球上に存在する他の生物や自然環境を無視していると感じる。地球には私たち人間だけでなく動物や植物、自然など、地球には豊かで多様なものたちで溢れているのだ。

核兵器は国も人ですら守れていない。それが事実であり、いまある現状である。核兵器はこれまで数えきれない悲しみと苦しみをもたらし、今も私たちに脅威を与え続けている。私はそんな核兵器が地球を守れるなんて思わないし、思いたくもない。

地球の安全と平和のために、核兵器廃絶への取り組みを一層強化していくべきだ。私たち一人一人の意識と行動が地球の未来を大きく左右することを忘れずに、真に持続可能な世界の実現に向けて力を合わせたい。

核兵器の存在する世界ではなく、核兵器のない世界こそが私たちを、地球を、未来を守るのだ。

核兵器は地球を守れるわけがない。(1864文字)